

社会資本総合整備計画 中間評価書

計画の名称	北部九州地域への来訪者の滞在促進戦略（広域的観光活性化）（重点）												
計画の期間	令和02年度～令和06年度（5年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	大分県												
計画の目標	<p>H29、30年と2年連続の豪雨災害が生じ、観光産業は打撃を受け、日本人延べ宿泊者数が減少しており、早期復興は喫緊の課題である。一方H24年以降、海外からの観光客が急激な増加の一途をたどっている。</p> <p>また、福岡県、大分県には高速道路の周遊ルートがあり、東九州道は今年度4車線化の一部事業化や優先整備区間に選定され、周遊ルートの更なる強化が図られているところである。</p> <p>この周遊ルートを中心とした高速道路網や九州新幹線を活用し、ICや駅と観光地のアクセス向上はもとより、観光地間の相互アクセスを強化することで、移動の効率性や速達性を高める。</p> <p>加えて、官民一体となった九州観光戦略委員会の一員として広域的な観光活性化に向けた九州観光戦略などの関連施策と連携し、全国各地のみならず海外からも北部九州地域への来訪者の滞在促進を図る。</p> <p>国東半島地域における観光地アクセスを向上することにより、観光振興による半島の自立的発展・活性化を図る。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	4,269	A	4,269	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30	R4末	R6末
1	<p>【福岡県・大分県 共通目標】延べ宿泊者数2,369万人(H30)から2,961万人(R6)に増加（592万人(25.0%)の増加）</p> <p>【福岡県・大分県 共通目標】延べ宿泊者数</p> <p>（九州北部地域内の延べ宿泊者数の増加率）=（評価時点の延べ宿泊者数 - H30の延べ宿泊者数） / （H30の延べ宿泊者数）</p>	2369万人	2744万人	2961万人
2	<p>大分県内の延べ宿泊者数を777万人(H30)から801万人（R6）に増加（24万人の増加）（3.1%増）</p> <p>大分県内の延べ宿泊者数</p> <p>（九州北部地域内の延べ宿泊者数の増加率）=（評価時点の延べ宿泊者数 - H30の延べ宿泊者数） / （H30の延べ宿泊者数）</p>	777万人	793万人	801万人
3	<p>国東半島地域の延べ宿泊者数525千人(H30)から542千人（R6）に増加（17千人の増加）（3.2%増）</p> <p>国東半島地域の延べ宿泊者数</p> <p>（国東半島地域の延べ宿泊者数の増加率）=（評価時点の延べ宿泊者数 - H30の延べ宿泊者数） / （H30の延べ宿泊者数）</p>	525千人	536千人	542千人
4	<p>【大分県 単独目標】拠点施設両子寺～真木大堂間のアクセス時間27分(H30)から24分(R6)に短縮</p> <p>拠点施設両子寺～真木大堂間のアクセス時間（要素事業：A11-001、003～006）</p> <p>アクセス時間の短縮割合(%) = (H30のアクセス時間 - 評価時点のアクセス時間) / (H30のアクセス時間)</p>	27分	25分	24分

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	○	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R02	R03	R04	R05	R06			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
広域連携事業	A11-001	道路	一般	大分県	直接	大分県	都道府 県道	改築	(一)新城山香線 田染 池部2工区	現道拡幅 L=0.96km	豊後高田市						466	-	
		国東半島地域																	
	A11-002	道路	一般	大分県	直接	大分県	都道府 県道	改築	(一)新城山香線 梅木 南工区	バイパス L=1.635km	豊後高田市						820	-	
		国東半島地域																	
	A11-003	道路	一般	大分県	直接	大分県	都道府 県道	改築	(一)新城山香線 梅木 北工区	バイパス L=0.587km	豊後高田市						1,334	-	
		国東半島地域、大分県の事業評価手続き開始以前に事業化した事業であるため費用便益費算出は未実施																	
	A11-004	道路	一般	大分県	直接	大分県	都道府 県道	改築	(主)豊後高田国東線 一畑2工区	現道拡幅 L=0.88km	豊後高田市						620	-	
		国東半島地域																	
	A11-005	道路	一般	大分県	直接	大分県	都道府 県道	修繕	(一)新城山香線 田染 蔭工区	舗装打替 L=2.25km	豊後高田市						138	-	
		国東半島地域																	
	A11-006	道路	一般	大分県	直接	大分県	都道府 県道	修繕	(一)新城山香線 田染 真中工区	区画線更新 L=0.68km	豊後高田市						1	-	
		国東半島地域																	

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												R02	R03	R04	R05	R06				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
広域連携事業	A11-007	道路	一般	大分県	直接	大分県	都道府 県道	改築	(一)新庄山香線 田染 路工区	バイパス L=0.99km	豊後高田市						890		-	
		国東半島地域																		
												小計						4,269		
												合計						4,269		

中間評価

中間評価の実施体制、実施時期	
中間評価の実施体制	中間評価の実施時期
大分県土木建築部道路建設課にて、中間評価を実施	令和7年2月
	公表の方法
	大分県ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>令和5年2月までに、(一)新城山香線 田染池部2工区の現道拡幅や(一)新城山香線 梅木北工区のバイパス整備が完成供用したことにより、拠点施設『両子寺』と『真木大堂』間のアクセス性が向上した。</p> <p>【効果事例】</p> <p>A11-003：(一)新城山香線 梅木北工区のバイパス整備により、両子寺から富貴寺までのアクセス時間が短縮（整備前：20分、整備後：19分）</p> <p>A11-001：(一)新城山香線 田染池部2工区の現道拡幅により、富貴寺から真木大堂までのアクセス時間が短縮（整備前：7分、整備後：6分）</p>
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、宿泊者数が減少し、中間目標値（R4）は達成できなかったが、観光ルートの完成又は部分供用により各拠点施設へのアクセス性向上など、広域的周遊観光の活性化に一定の効果があったと推察される。</p> <p>事業中の要素事業については、計画期間内に完成又は部分供用するよう事業進捗を図り、観光周遊ルート形成により拠点施設における広域的特定活動とタイミングを合わせた事業効果の早期発現を目指す。</p>	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	中間目標値	九州北部地域内の延べ宿泊者数2369万人（H30）から2744万人（R4）に増加（15.8%増）
	中間実績値	福岡県・大分県の計画区域における延べ宿泊者数は、中間目標値（R4）を達成できなかった。理由としては、新型コロナウイルス感染拡大に影響による外出自粛や外国人観光客の訪日制限等があったことが要因として考えられる。観光客数は回復しており、今後はインバウンドを含めた需要拡大が期待される。（福岡県・大分県延べ宿泊者数 H30（当初現況値）：2,369万人、R1：2,832万人、R2：1,545万人、R3：1,378万人、R4：2,030万人、R5：2,756万人）
2	中間目標値	大分県内の延べ宿泊者数777万人（H30）から793万人（R4）に増加（2.1%増）
	中間実績値	大分県の計画区域における延べ宿泊者数は、中間目標値（R4）を達成できなかった。理由としては、新型コロナウイルス感染拡大に影響による外出自粛や外国人観光客の訪日制限等があったことが要因として考えられる。観光客数は回復しつつあり、今後はインバウンドを含めた需要回復・拡大が期待される。（大分県延べ宿泊者数 H30（当初現況値）：777万人、R1：790万人、R2：486万人、R3：416万人、R4：630万人、R5：754万人）宿泊者数は中間目標値を下回ったが、旅行者の宿泊日数について2泊以上の人の割合は18.9%（H30）から22.3%（R4）に増加し、大分県内での滞在促進が図られた。
3	中間目標値	国東半島地域の延べ宿泊者数525千人（H30）から536千人（R4）に増加（2.1%増）
	中間実績値	国東半島地域における延べ宿泊者数は、中間目標値（R4）を達成できなかった。理由としては、新型コロナウイルス感染拡大に影響による外出自粛や外国人観光客の訪日制限等があったことが要因として考えられる。宿泊者数は中間目標値を下回ったが、県内市町村のうち国東半島地域に宿泊した人の割合は6.5%（H30）から7.8%（R4）に増加し、滞在促進が図られた。
4	中間目標値	拠点施設両子寺～真木大堂間のアクセス時間27分（H30）から25分（R4）に短縮
	中間実績値	（一）新城山香線 田染池部2工区(A11-001)、（一）新城山香線 梅木北工区(A11-003)の全線供用により、拠点施設『両子寺』と『真木大堂』間の所要時間が約2分短縮し、中間目標値（R4）を達成した。